

## 住居における庭の利用と評価に関する考察

岩重博文 (広島大)

**目的** 住居の庭には、室内生活を補完する場としての役割や外部に対する緩衝空間としての役割などがある。庭を前庭、主庭、裏庭（サービスヤード）に区分して居住者の利用状況や評価を調査することにより、庭利用の特徴や問題点を把握することを目的とする。敷地と公道との接し方により入口が異なることより、南入り・北入りに分けて考察する。

**方法** 東広島市内の比較的新しい住宅地、高屋高美が丘の一戸建て住宅の居住者を対象として、庭の利用に関するアンケート調査を行った。主な調査内容は、庭の各種利用状況、庭における生活行為に関する現在の庭に対する満足度評価、および理想とする庭に対する生活行為に関する重要度評価などである。調査時期は平成9年9月、調査用紙は直接配布、直接回収した。住戸への南入り50戸、北入り50戸計100戸の有効回答を得た。

**結果** 1) 庭の利用状況：住戸への南入りと北入りとで差が認められる。①空き缶、空き瓶、ごみなど室内からの流失物を置く位置に差があり、南入りでは裏庭に置くのに対し、北入りでは裏庭だけでなく主庭にも置かれる。②南入りは主庭が開放的である反面、裏庭は閉鎖的である。北入りの場合、裏庭は前庭と主庭を結ぶ通路の役割をつとめ閉鎖的にはならない。このため立ち話なども行われる。2) 庭に対する評価：現在の庭に対する満足度・理想とする庭の重要度いずれにおいても、居住した年数により評価は異なる。居住年数が短いほど現状と理想との差は大きく、居住年数が長くなると現状を受け入れ、理想との差は小さくなる。3) 庭の傾向：緑が多く、自由に使い、生活空間に変化をもたらすもの。室内と一体的に利用できるものが望まれる。